

積雪地周辺のイノシシの行動

1. 積雪地周辺で冬を越す

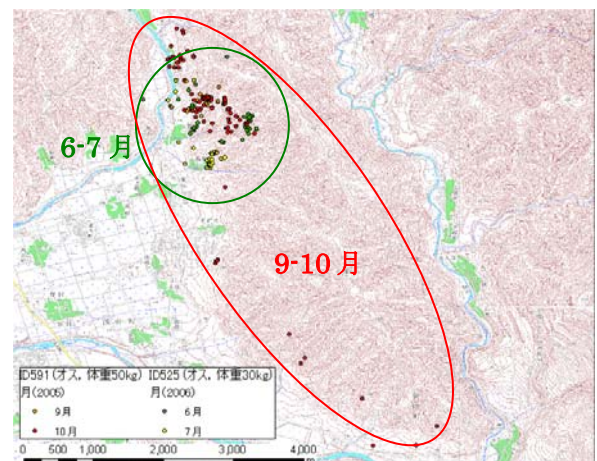
獣道に設置した自動撮影カメラ調査によれば、雪が多くなると少ない場所に移動し、雪が少なくなると再びもどってくるイノシシが観察される。新雪と積雪が多い‘多雪地’ではイノシシの痕跡は少なくなるが、イノシシは‘積雪地周辺’で冬を越している。ここ20年来の暖冬化は、‘多雪地’の後退と‘積雪地周辺’の前進をもたらし、それにともなってイノシシの分布も広がっている。



雪が多くなると雪が少ない場所に移動し、雪が少なくなると再びもどってくる。

2. 集落・農耕地周辺で生活し、木の実のシーズンは山側に移動する

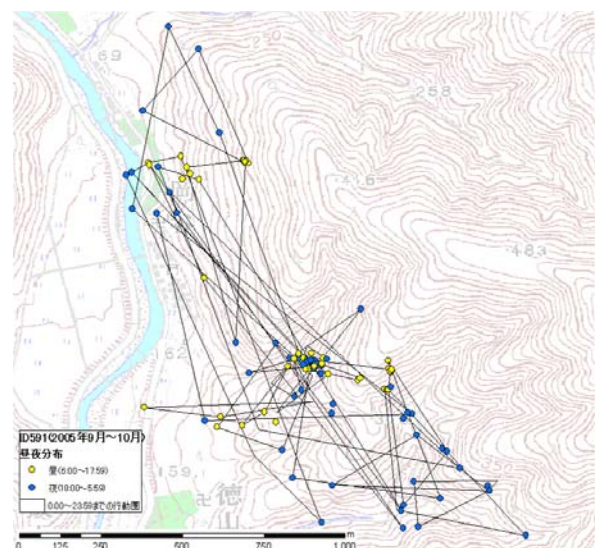
GPS テレメトリ調査によれば、イノシシは春先からイネの収穫期頃にかけて集落や耕作地周辺で活動することが多い。放置された竹林や耕作放棄地がイノシシの餌場、潜伏場所、移動経路となっているようすもうかがえる。その後、木の実のシーズンになると山側に移動し、行動域が広がる。積雪地周辺では、暖冬化に加え放置竹林や耕作放棄地などがイノシシ被害増の背景となっている。



春先から稲の収穫期頃まで集落周辺を行動し、木の実のシーズンには山側に移動する。

3. 集落・農耕地周辺や背後の山林にねぐらをとる

同様に GPS テレメトリ調査から、イノシシが集落・農耕地周辺や背後の山林に複数のネヤをつくり、そこから集落や農耕地周辺に出没するようすもうかがえた。昼間はネヤにいて、主に日没から夜明けにかけて活動している。



主に日没から夜明けにかけて行動する。

被害対策のポイント

1. 積雪地周辺は、雪上にイノシシの足跡が残るため、イノシシの動向を把握しやすい。被害対策において捕獲圧をかける必要がある場合、このような積雪期の利用は効果的であろう。
2. 積雪地周辺でのイノシシの分布拡大と被害発生は、暖冬化とともに放置竹林や耕作放棄地の増加などが背景にあるので、生息地管理が重要となってくる。
3. 集落・農耕地周辺にいたイノシシは、木の実のシーズンに山側に移動しても、木の実がなくなると再び集落・農耕地周辺に戻ってくる。1年を通して集落・農耕地周辺にイノシシが棲みつかない環境をつくることが重要である。

<課題名> 積雪中山間地域におけるイノシシの行動及び生態学的特性（季節生息地）の解明

<目的> 近年、積雪地域でイノシシの分布が拡大し、被害地域も北上しつつある。このような分布拡大地域を対象に、イノシシの季節移動および定着性を調査し、農作物被害との関係を検討する。

<成果の問い合わせ先>

高橋 春成（たかはし しゅんじょう）

奈良大学 文学部地理学科

奈良県奈良市山陵町 1500

電話 : 0742-41-9538

メール : shunjo@daibutsu.nara-u.ac.jp